

## 第1回 甲府市社会福祉審議会 障害者福祉専門分科会 計画部会 議事録

開催日時: 令和5年6月16日(金) 10時00分 ~ 11時30分

場 所: 甲府市役所本庁舎7階 大会議室

出席委員: 大塚ゆかり委員、千野由貴子委員、越水眞澄委員、岡村昌典委員、雨宮秀樹委員

欠席委員: 神吉まゆみ委員、畠山和男委員

事務局: 田中課長、原山係長、村松主任

担当課: 福祉保健部 障がい福祉課

傍 聴: なし

会議内容:

### 1 開会

事務局より開会の挨拶を行った。

### 2 障害者福祉専門分科会

事務局より説明を行った。

### 3 会長選出

甲府市社会福祉審議会運営条例第4第1項の規定に基づき、委員の互選により大塚委員が会長に選任された。

また、甲府市社会福祉審議会運営要綱第4第3項の規定に基づき、大塚会長により、千野委員を職務代理者に指名した。

### 4 会長あいさつ

計画は重要な案件である。今後、数年かけて、甲府市の障がい者にとってよりよい地域社会をつくるためのものである。皆さんのご意見をお聞きしたい。

### 5 議事

#### (1) 計画の策定について

事務局より、「甲府市障がい者福祉計画」の策定について説明を行った。

#### 【D委員】

21年度のサービス提供量の実績値について聞きたい。通所事業所とグループホームを運営しているが、通所の事業所の実績値はかなり増えているという認識である。見込み量は、どのように算出しているのか。

#### 【事務局】

ここに掲載している数値は、計画の目標値に対する%として算出している。また、ここに掲載している数値は、通所の就労継続支援 B 型だけでなく、それ以外の障がい福祉サービスも含めている。コロナの影響により、ショートステイなどの利用実績が少ない状況もあるなど、減っているサービスもある。それぞれのサービスの見込み量と実績を見ていかないと説明が難しいと考える。

#### 【B委員】

現行の計画の検証については、21年だけでなく、22年、23年の進行中の数値については、検証を行う必要が

ある。スケジュールの中で、どのタイミングで検証を行うのか。

【事務局】

アンケートなどの調査結果も含めて、8月までに結果をまとめる予定である。

【B委員】

現行の計画では、数値の整理を丁寧に行っている。一つ一つのサービスについて丁寧に検証しなければならないし、障がい福祉だけでなく、教育や防災など多岐にわたった数値を検証する必要がある。9月にはこれらの数値を出していただけるのか。

【事務局】

8月中には取りまとめ、9月に課題などを出していきたい。

【会長】

計画については、この会議とは別に、甲府市地域自立支援協議会があるので、並行して検討を行っていききたい。この部会には9月で新たな提案があるという認識である。

## (2) アンケート調査票について

事務局より、「甲府市障がい者福祉計画」のアンケート調査票について説明を行った。

【B委員】

成年後見についてアンケートを行うことはとてもありがたい。成年後見制度の説明を記載しているが、これだと財産管理を行うことが成年後見という理解になってしまう。しかし、成年後見で一番重要なのが権利擁護である。むしろこれらに付随して財産管理を行うことが重要になる。本人の状況に合わせて、様々な立場の後見人、補佐人などが支援することがある。後見人に限定した認識でなく、成年後見制度に着目した認識として説明を追加してほしい。

【事務局】

ご指摘いただいた内容については反映していきたい。

【D委員】

問9であるが、強度行動障害の判定を受けていることは、家族や本人に伝えているのか。また、日中どこで過ごしているかについて質問されているが、この中で施設という選択肢があるが、これには生活介護や機能訓練が入っているのか。

【事務局】

施設となると、生活介護や機能訓練は含まれているので、具体例を施設に明記したい。

【D委員】

児童発達支援については、成人は利用できないが、成人の方に利用していない理由をあえて質問する必要があるのか。

【事務局】

年齢制限ということで判断を行ってもらえない。

【B委員】

子ども向けの調査票と、成人向けの調査票を分ければ、このような煩雑の問題は発生しないと思う。

【事務局】

今回は、これまでの調査の経緯を踏まえ、そのような分け方を行わない。

【D委員】

強度行動障害については、家族はわかっているのか。

【C委員】

家族はわかっていると思う。

【会長】

私たちがアンケートを取る際には、プレ調査を実施するケースが多い。プレ調査を行って、調査票について再検討を行ってはどうか。

【事務局】

プレ調査を検討したい。

(3) その他

【B委員】

現行計画について、次回までに、数字を出してもらえと思っているが、実際に気になるところを指摘することはできるのか。

【事務局】

ぜひお願いしたい。

【B委員】

現行の計画は良いものだと思うが、コロナの影響で思うようにいかなかった部分もあると思う。

また、自立支援協議会の定例会にて、苦労している話はよく聞いている。何が上手くいっていないのか、どうしたらよいかについて分析する必要がある。現行計画の中で気になったところをピックアップしてきたので、この後、事務局に提示したい。

【会長】

実情に合った計画になっている実感はあるが、さらに良い計画となるように、協議していきたい。市もよい計画になるよう、取り組んでいただいている。

【E委員】

学校現場では、子どもの困り感はあるが、親の困り感や負担感を感じている。行政から、家庭へのフォローがあると良い。

現行計画のなかで、介助している中での困りごとについてのアンケート結果が掲載されているが、将来的にも介護を行う中で、精神的、肉体的な負担感を感じている方が多いことが見て取れる。

行政サービスの中で支援が入るとありがたい。

【C委員】

皆さんの真摯な意見を聞いて、その通りだと思っただけである。

【D委員】

障がい福祉サービスを提供している側として、これからの時代は、家族を含めて負担している方の負担を減らすためにも、人材確保と質の確保は重要である。ICTは、事務効率は上がると思うが、マンパワーのフォローにならない。介護福祉は公定価格と言われている。自分たちで決められないので、価格を上げられず、人員の確保も難しい状況である。介護福祉のイメージアップの方法を考えてほしい。また、障害福祉人材の人材確保、質の確保を考えてほしい。

【会長】

大学で人材を養成している立場では、人口が減り、子どもが減っている中で、福祉に関心を持つ子どもも減っていると実感している。より良い職場環境だと、働く人が増えると思う。現場や行政と協力しながら、働きやすい環境を整えていきたい。

資 料:

- 1.甲府市社会福祉審議会条例
- 2.甲府市社会福祉審議会運営要綱
- 3.甲府市社会福祉審議会 障害者福祉専門分科会運営要領
- 4.甲府市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会・計画部会委員名簿
- 5.「甲府市障がい者福祉計画」の策定について
- 6.「甲府市障がい者福祉計画」のアンケート調査票について
  - (1)令和5年度 甲府市障がい者福祉計画に関するアンケート調査項目(案)
  - (2)「アンケート調査業に対するご意見」①～⑦
  - (3)「甲府市障がい者福祉計画に関するアンケート調査」(前回調査票)
  - (4)「甲府市障がい者福祉計画に関するアンケート調査報告書